

令和5年度第3回府中市市民協働推進会議 会議録

- 日 時 令和5年7月21日(金)午後3時～5時
- 会 場 府中駅北第2庁舎3階小会議室
- 出席者 (委員)青山委員、井上委員、坂牧委員、鈴木委員、関谷委員、花岡委員、
藤江委員、森田委員、山岡委員、山根委員
(事務局)小塚協働共創推進課長、本田協働共創推進課主査、小池事務職員、
俵原事務職員
- 欠席者 伊沢委員
- 傍聴者 なし
- 議 事 1 答申案について
2 市民協働の取組の進捗管理について
3 提案型協働事業評価部会の検討状況について
4 市民協働の推進に関する条例案について
5 その他
- 資 料
- 資料1 府中市市民協働推進会議の開催予定
- 資料2 令和4年度府中市協働事業評価結果及び府中市市民協働の推進に関する条例案について(答申案)
- 資料3 - 1 総合計画における「協働により推進したい取組」の進捗評価シート
- 資料3 - 2 総合計画における「協働により推進したい取組」の集計について
- 資料3 - 3 令和4年度に実施した協働事業一覧
- 資料3 - 4 令和4年度協働事業等の調査結果について
- 資料4 令和4年度提案型協働事業 第三者評価シート
- 参 考 令和4年度提案型協働事業 ヒアリングシート
令和4年度府中市提案型協働事業に係る報告会 発表資料

開会

- 会長より、事務局へ委員の出席状況などについて報告を依頼した。
- 事務局より、欠席者は1名、定数11名のうち過半数の委員が出席しており、会議が有効に成立していることを報告した。傍聴の申込はなかった。続けて配付資料を確認し、資料1のとおり第4回推進会議の会場が確定したことを報告した。

議事録の確認

- 会長より、事前送付された第2回推進会議の議事録について修正の意見がなかったことが報告された。その他に意見がないことを確認のうえ、議事録および資料ともに確定し、事務局に公開の手続きをとるよう依頼した。

次第1 答申案について

- 会長より、次第1について事務局に説明を依頼した。
- 事務局より、答申案の形式を資料2のとおり想定しており、内容については前回までの審議を踏まえた案を記載していると説明した。
- 会長より、答申案の委員に形式に関する意見を確認がなされた。意見がないことを確認し、次の議題に移行した。

次第2 市民協働の取組の進捗管理について

- 会長より、次第2について事務局に説明を依頼した。
- 事務局より、次のとおり説明した。
 - ・資料3-1に第7次府中市総合計画における「分野」と施策番号に関する注釈を追記した。
 - ・資料3-2に「2分野別の進捗状況」を追加し、「3まとめ」にも追記を行った。
 - ・前回、協働を推進したことによって市民生活が向上したのかどうか、協働の成果を知りたいという意見があったため、資料「その他の参考指標」に市政世論調査のうち「市民の生活満足度」「協働の認知度」「市と市民との協働事業数」「社会貢献実施率」に関する設問の結果をまとめ記載した。

- ・資料「その他の参考指標」の「2 社会貢献活動と幸福度との関係」より、社会貢献活動に取り組んだと回答した人の方が取り組んでいないと回答した人よりも幸福度が高いことが伺え、相関関係も見られる。社会貢献活動や、関連して市民協働に取り組むことが市民の幸福度を高める可能性があると考えられる。
- ・資料「その他の参考指標」の「社会貢献実施率」については、2022年度から調査を開始した項目であり、今後はこの経年変化から増減傾向や生活満足度との関連などを分析できるとよいと考えている。
- ・資料3 - 3に、第7次府中市総合計画における施策番号を追記したほか、いくつかの事業の「協働の形態」「協働先」を修正した。これに伴い資料3 - 4「令和4年度協働事業等の調査結果について」も再集計した。
- ・前回、資料3 - 1で高評価を得た施策の事業の「協働の形態」や「協働先」が資料3 - 4で確認できるとよいという意見があったが、資料3 - 1は各施策のうち特に「協働により推進したい取組」として実施した事業についてのみ評価しているのに対し、資料3 - 4は全ての事業について列挙しているため、資料3 - 1の評価が資料3 - 4の全事業にあてはまるものではない。また高評価を得ている施策中で実施した事業は、資料3 - 1の表中にある「今年度の取組実績」欄から確認していただきたい。

○会長より、説明内容および答申案に対して委員に意見の確認がなされた。

○委員より、次のとおり発言・質問があった。

- ・資料「その他の参考指標」について以前から当会議では事業ごとではなく市全体の住みよいまちづくりに繋がっているかを評価できるとよいと考えていたが、今回社会貢献活動と幸福度の関係をひとつの見方として提示してもらい、結果からも進歩がみられてよかった。資料3 - 1は協働事業を行った当事者や関係者による評価だが、世論としての見解を提示するものとして意味のある資料である。
- ・市政世論調査の対象者は誰か。

○事務局より、市政世論調査は無作為に抽出した市内在住者1500人に依頼し、令和4年度は845人から回答があったと説明があった。

○会長より「社会貢献活動」と「幸福度」の関係については、直接的な因果関係を示すものではないが、ひとつの見方としてグラフ化して提示することで市民に状況を伝えることができると発言があった。また資料3 - 1について、市民に公開する資料とし

てより見やすい文字サイズやフォーマットに改良を検討してほしいとの発言があった。

○委員より、次のとおり質問があった。

- ・資料「その他の参考指標」の1の表のうち「協働件数（庁内の協働実績調査）」の「庁内」とはどういう意味か。
- ・同表のうち「協働の認知度」の2022年が空欄なのはなぜか。
- ・同資料の2の「幸福度」は調査の際にどのように定義をしたのか。「生活満足度」とは別のものなのか。

○事務局より、次のとおり回答があった。

- ・「協働件数（庁内の協働実績調査）」は資料3-3にあげた事業の件数だが、「庁内」という表現は削除し、表現を統一する。また2022年は194件となっているが、正しくは195件のため訂正する。
- ・「協働の認知度」は常設ではなく特設設問として毎年質問していたが、2022年度から特設質問の内容を毎年変更することになったため、設けなかった。
- ・「生活満足度」は毎年質問しているが、令和3年度は社会貢献活動に関する特設設問の中で、社会貢献活動と主観的幸福度との関連を調べるために「幸福度」についての設問を設けた。設問は「現在、あなたはどの程度幸福だと感じていますか。『とても幸せ』を10点、『とても不幸』を0点とした場合、次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。」で、「幸福度」の言葉の定義はしていない。

○会長より、資料「その他の参考指標」に市政世論調査の対象や設問の内容を補足するよう事務局に伝えた。その他の意見がないことを確認のうえ、次の議題に移行した。

次第3 提案型協働事業評価部会の検討状況について

○会長より次第3について、6月22日に実施した提案型協働事業の報告会に出席した部会長に報告を依頼した。

○提案型協働事業評価部会員長より、次のとおり報告があった。

- ・6月22日に実施された令和4年度の提案型協働事業の報告会に出席し、団体と担当課から成果や課題について報告を受けた。部会としての評価は資料4「第三者評価シート」のとおりで、発表資料を参考に配付した。

- ・評価は提案型協働事業評価制度実施基準に基づいて行った。参考に配付した「ヒアリングシート」にある10項目について、市と団体の両方が実施できていれば1点を付け、計10点満点で採点、最終的に部会員3人の平均点をもとに、SからDまでの5段階で評価した。
- ・協働の原則に沿って事業を展開できた事業もあれば、役割分担や目的の共有の点で課題が残る事業もあった。発表内容に加えて、ヒアリングを通じて成果と課題について確認することができた。

○委員より、次のとおり質問・発言があった。

- ・部会員3人の評価がわかれた事業はあったか。
- ・提案型協働事業として実施したことの効果があったかどうかかわかるとよい。
- ・部会員ではないが報告会を聴講した。評価が高かった事業はチラシやSNSを使った告知がうまく機能しており、評価が低かった事業は担当者の交代などによって考え方の引継ぎがうまくいかなかったように見え、その結果が評価に現れていると感じた。

○部会員より、3人の評価が大きくわかれた事業はなかったと発言があった。

○会長より、部会員に対してほかに意見がないか確認がなされた。

○部会員より、次のとおり発言があった。

- ・いずれの事業も内容はよかったが、団体が協働に慣れているかどうか評価の差に影響したと感じた。また結果が振るわなかった事業については市か団体のどちらかのみが積極的であり、対等に協働ができていなかったと感じた。
- ・S評価の団体は過去にも市と協働したことがあり、その経験が大きかった。提案型協働事業は市民または行政どちらかの提案を、他方が受け止めて成立するもののため、最初のすり合わせが重要である。
- ・S評価の事業も参考になると思うが、それ以外の評価だった事業の振り返りが重要である。市としては、まだ協働に慣れていないが挑戦しようとしている団体に対してのサポートができるよう、今回の結果からどうすればうまくいくか、また失敗するかを学び、次代に伝える必要がある。

○会長より、部会員以外の委員も含め報告内容や答申案に対して意見がないか確認がなされた。あわせて「第三者評価シート」のフォーマットについて、S～Dの評価結果を見やすい位置に修正するよう発言があった。

○委員より、次のとおり発言があった。

- ・「第三者評価シート」に行政提案型か市民提案型か記載があった方がいいのではないか。
- ・提案団体の中には過去にも当事業を経験した団体もあり、応募者に偏りがある。提案型協働事業は市民に公開されて進めることが特徴であり、協働事業の進め方を広く知ってもらえる機会になるため、裾野を広げることも課題である。
- ・団体が時間をかけて実施した事業を10分間の発表と15分間のヒアリングという短時間で評価をすることに難しさを感じた。協働の原則の観点から減点とせざるを得ないという心苦しい部分があった。
- ・各採点項目について0点か1点かで評価するのは難しく、評価段階をより細分化した方がよいと感じた。最終的にS～Dまでで評価するので、前段階としての採点は3段階くらいにした方が後で振り返る際にも、改善点が分かりやすいと感じた。

○会長より、「ヒアリングシート」の配点および「第三者評価シート」のフォーマットに対する意見を答申案に反映し、次年度の改善に繋げるよう事務局に伝えた。

○委員より、提案型協働事業の最終的なビジョンは何かという質問があった。提案型協働事業として実施することの意義があるのか、この制度の特長が生かされているのか考えた方がよいという意見があった。

○事務局より、これまで提案型協働事業として市民のアイデアやノウハウを生かし、行政単体では行えない事業を多数実施することができたが、実施が募集年度の翌年になることで採択から実施までに時間を要し、市と団体間で考え方の共有や信頼関係の構築に影響したことは各事業共通の課題であったため、今年度から実施する「価値共創促進事業」では改善したと報告があった。

○会長より、次のとおり発言があった。

- ・提案型協働事業は「協働」という言葉が浸透する以前に開始した事業で、協働事業がどういったものかを体験するという役割も兼ねていた。
- ・門戸を広げると言う意味では昨年度から補助対象経費に人件費を計上できるようにしたことで応募の促進につながったと考える。また近年はこの制度を介さない協働事業が多数行われるようになってきたと考えられる。
- ・委員の意見を踏まえると、過去に実施した事業が現在どうなっているかを確認することで、今後の参考になるほか、この制度や評価方法の振り返りにも繋がる。過去の提案型

協働事業の追跡調査が可能であれば、答申後でも問題ないため委員に情報共有をしてほしい。

○事務局より、過去に実施した提案型協働事業の追跡調査の実施について検討すると発言があった。

○会長より、その他の意見がないことを確認し、評価結果について資料4のとおり確定する旨の発言があり、次の議題に移行した。

次第4 市民協働の推進に関する条例案について

○会長より、次第4については事務局による内容の整理を行っているため、審議を保留とすることを説明し、了承を得た。条例案がまとまり次第、委員に情報共有するよう事務局に依頼し、次の議題に移行した。

次第5 その他

○会長より、本日予定された審議事項についてすべて終了したことを確認した。その後、委員等が所属している団体等で予定しているイベントなどの紹介を求めた。

○委員より、実施予定のイベントについて紹介があった。

○会長より、紹介を確認し、その後、事務局に連絡事項についての発言を依頼した。

○事務局より、次回の会議に日程と会場を伝えた。

○会長より、委員に謝辞を伝え、改めて次回への出席をお願いした。
その後、閉会宣言、解散。